

マチに学び都市を楽しむ / まちづくりNPO

特定非営利活動法人 もうひとつの旅クラブ

2006年度(第5期)事業報告書

1. 旅クラブが2006年度に取り組んだ事業実績

2006年度は、「ご来光カフェ」の実施を中心に、調査業務も受託するなど、中之島を中心的な活動エリアとして、主に水を活かす提案型の活動を行った。同時に、昨年に引き続き公的な機関や関西を代表する企業と連携がさらに高まり、知恵と汗を併せ持つNPOとしてのプレゼンスが一層高められた。また、次年度以降の会の活動方針を考えるとともに、会員の交流を向上する事業として、国内外への視察合宿を行った。

以下が本年度の主な事業項目一覧である。

- (1) 「中之島水系の国際戦略ノート」業務
- (2) 「ご来光カフェ」中之島物語～その魅力と未力
- (3) 台北視察合宿
- (4) 石見・松江視察合宿
- (5) 情報提供、提言活動事業

これら事業の詳細や組織内評価分析を以下に報告する。

(1) 「中之島水系の国際戦略ノート」業務

【事業趣旨・目的】

大阪を「お客様を案内するのに恥ずかしくない街」にするにはどうしていけばよいのか。歴史的建築物、文化施設、公共空間等の資源をビジターの視点で調査し、生かせる資源をピックアップしてつなぎ、ビジターをもてなす物語を提案した。提案内容は、2009年の開催に向けて企画されている集客イベントでの実行につなげていくことを視野に入れ検討を進めた。

【事業内容】

- ・ 期 間：2006年1月～4月
- ・ 対象エリア：大川端（毛馬閘門～中央卸売市場）、中之島、大阪城公園
- ・ 委託者：株式会社リンクプレイス
- ・ 内 容： 中之島水系に残る歴史資源、文化資源等の現況調査と評価
資源をつなぐお薦めコース（レシピ）の提案

【事業成果】

観光アセスメントという概念を提示し、評価指標を作成するとともに、中之島水系の観光資源の評価を行い、国際水準の観光という観点からの問題点を浮き彫りにした。また、活用資源を国際水準に引き上げる方法として、橋や舟運の活用、NPOによる舟屋運営等の提案を行い、水都大阪2009計画の企画に大きな示唆を与えた。

(2) 「ご来光カフェ」 中之島物語～その魅力と未力

【事業趣旨・目的】

中之島は大阪都心のど真ん中に位置する貴重なアウトドア公共空間である。明治 24 年、大阪で初めての近代公園として誕生した中之島公園は、当時、ビアガーデン、飲食店、将棋所、舞台、さまざまな屋台船、ボートなどがひしめき、市民の娯楽の名所となっていた。

このプロジェクトは、市民共有の資産「中之島・アウトドア公共空間」の過ごし方、使い方を多様な側面から提案し、各人それぞれの「中之島時間」を発見していただくことで、実施期間後、1 人でも多くの方に中之島の豊かな普段使いをしていただくことを目的として実施した。

【事業内容】

- ・ 期 間：2006 年 10 月 1 日（日）～15 日（日）
- ・ 営業時間：日の出（5:50 頃）～8:30
- ・ 場 所：大阪水上バス淀屋橋港棧橋
- ・ 内 容： 棧橋を装飾、テーブル・ベンチを設置（営業時間後撤去・保管） 横断幕設置
飲食販売（淀屋橋港のカフェスペースを固定店舗申請） 飲み物は 200 円で提供
旅のカードブックパネル展示（外国人対応としての位置づけ）
アンケートの実施

【事業成果】

早朝にも関わらず、期間中に約 500 人の来場者があり、予想を大きく上回る結果となった。その理由としては、大阪市内のど真ん中からご来光が見られると事実が大変新鮮であったことが上げられ、水都大阪の新しい魅力資源の可能性を示すことができた。また、既存棧橋を有効活用することで大きな投資がなくても魅力アップが可能であることが示された。

【活動写真や告知資料】



ご来光の瞬間



朝の清々しい雰囲気を満喫

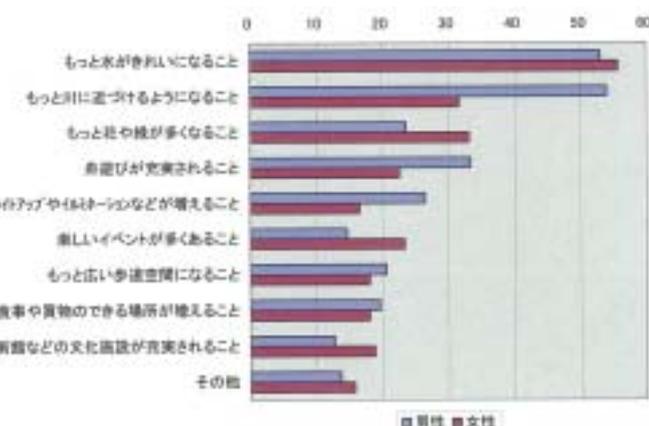
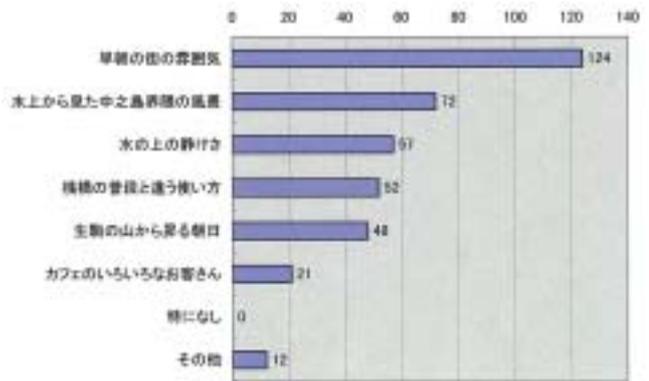
2006年10月19日(土曜日) 朝日新聞

「中之島の日の出」親しんで 大阪NPOが早朝カフェ

大阪・中之島の水上バス橋、10月1日からは15日まで、早朝の時間帯だけ、オープンカフェで営業する。1日が、中之島の早朝の静かな時間を満喫していただく。10月1日、中之島の早朝の静かな時間を満喫していただく。10月1日、中之島の早朝の静かな時間を満喫していただく。

大阪・中之島の水上バス橋、10月1日からは15日まで、早朝の時間帯だけ、オープンカフェで営業する。1日が、中之島の早朝の静かな時間を満喫していただく。10月1日、中之島の早朝の静かな時間を満喫していただく。

大阪・中之島の水上バス橋、10月1日からは15日まで、早朝の時間帯だけ、オープンカフェで営業する。1日が、中之島の早朝の静かな時間を満喫していただく。10月1日、中之島の早朝の静かな時間を満喫していただく。



アンケート結果 (n = 240)

読売新聞 9月30日

朝日新聞 10月5日 (夕刊)

「中之島の日の出」親しんで 大阪NPOが早朝カフェ

大阪・中之島の水上バス橋、10月1日からは15日まで、早朝の時間帯だけ、オープンカフェで営業する。1日が、中之島の早朝の静かな時間を満喫していただく。10月1日、中之島の早朝の静かな時間を満喫していただく。

大阪・中之島の水上バス橋、10月1日からは15日まで、早朝の時間帯だけ、オープンカフェで営業する。1日が、中之島の早朝の静かな時間を満喫していただく。10月1日、中之島の早朝の静かな時間を満喫していただく。

2006年10月19日(土曜日) 毎日新聞

Watch! 大成功の「ご来光カフェ」 時の流れ感じる中之島

「ご来光」はパリのセーヌ川?」

中之島の早朝の静かな時間を満喫していただく。10月1日、中之島の早朝の静かな時間を満喫していただく。

中之島の早朝の静かな時間を満喫していただく。10月1日、中之島の早朝の静かな時間を満喫していただく。

毎日新聞 10月19日

(3) 台北視察合宿

【事業趣旨・目的】

台北市は台湾の首都として経済発展を続け、世界最高層の台北 101 ビルが建設されるなど現代的な大都市の様相を示すが、その一方で伝統古跡もよく保存されており、博物館や歴史的な寺廟、ショッピングや夜市など昼夜を分けず、さまざまな楽しみ方が提供されている。人口規模が大阪市と同じ 260 万人であり、大阪市と比較して考えやすい都市である。

また、台北近郊の中心市街地には、奥行きが深い細長い敷地にアーケードが付いた商店建築が並ぶ商店街がある。我が国と同様に大型商業施設に圧されて衰退し、まちなみの破壊が続いていたが、近年こうした歴史的な中心市街地 = 「老街」が観光資源として見直され、再整備が進められている。こうした隣国での取り組みを旅人の視点で検証するものとし、海外合宿を実施した。

【事業内容】

- ・日 程：2006 年 8 月 17 日（木）～21 日（月）
- ・行 程：8/17 台北着、台北市街・市林夜市見学
8/18 鶯歌・三峡の老街見学、淡水見学
8/19 大溪・湖口の老街見学、日本都市計画学会視察団との会食
8/20 台北市街チーム、台中・鹿港チームに分かれて見学
8/21 台北新市街見学、台北発帰国
- ・参加メンバー：鳴海顧問、三宅顧問、井上、泉、岩田、大矢、岸田、根津、米谷
（会員外参加メンバー：角野（関学）、江川（関大）、岡（関大）、岸田家族 2 名、現地案内：黄）

【事業成果】

現地案内の名ガイドにより、一般ツアーでは行くことのない台北近郊の町々を訪れることができ、多くの観光客を集めている事実と小都市の観光振興への熱意を感じることができた。また、台北市ではセミパブリック空間の活用方法などを通じて、大阪市と同規模の都市とは思えない活気を感じることができた。

【活動写真や告知資料】



市林夜市の賑わい
飲食と物販はエリアを分けている



陶器の街である鶯歌の中心通り（老街）
テントにより街並みの統一を図っている



三峡 古い街並みが残る民権老街
公共による修復工事が進められている



淡水の漁人ハーバー
ウォーターフロント開発による新名所



桃園大溪 和平路老街
観光客を集める商店街として機能



新竹湖口 客家（ハッカ）による老街
環境整備され、セットのように美しい



台北市 北門
風水にもとづき建設された台北旧市街の名残



台北市 西門街週末の賑わい
若者の街だが、日本でも馴染みのチェーン店が多い



台北101ビル
周辺には百貨店、高層オフィスなどが開発されている

(4) 石見・松江視察合宿

【事業趣旨・目的】

島根県は道路やダム建設の公共工事戦略の県政から、石見銀山の世界遺産化を核とした「観光産業ベースの公共政策」へと、近年大きくシフトした。その際には石見銀山の県西部と、「堀川めぐり」等ですでに有名な県東部・松江エリアを回遊できるルート観光に向けた投資集中が顕著となっている。そこで我々NPOは、京阪神三都の広域観光の可能性を島根県に見立て、また、松江市中心部の「堀川めぐり」を「中之島めぐり」に置き換え、旅人の視点でこれらを検証するものとし、国内合宿を実施した。

【事業内容】

- ・日 程：2006年11月18日(土)～20日(月)
- ・行 程：11/18 石見銀山、大森地区、温泉津温泉
11/19 出雲大社、松江・堀川巡り
11/20 松江城、松江市街見学、帰阪
- ・参加メンバー：井上、泉、岩田、木村、米谷、李（会員外参加メンバー：松井（毎日新聞））

【事業成果】

銀山街道・大森地区の街並みは、観光資源としての「街のチカラ」再確認させてくれた。また、昭和40年代の東北地方のひなびた温泉地を思い起こす温泉津の共同浴場は、「造り過ぎない継続のチカラ」による魅力を堪能させてくれた。さらに、松江・堀川めぐりでは、船頭さんのナマ声・郷土の歌がいかにか「人を惹きつけるチカラ」を持っているかを思い知らされた。これらを参考に、大阪の観光政策にも、「街のチカラ」「造り過ぎない継続のチカラ」で「人を惹きつけるチカラ」とする、政策提言をどんどん行いたい。

【活動写真や告知資料】



温泉津温泉



松江堀川めぐり

大阪の観光は川遊びにあり

松井 宏員

大阪府、朝の丸川を川が流れる。暫く、パリはセーヌ川の夕陽をモラルに作り上げられた中之島の風景を生かさない手はない。尾道の輪船は活発だ。同クラブは昨年、愛媛県の川べりで朝日を拝みながらお茶をする「川遊び」を企画して好評だった。ほかにも瀬田水が案内する水上観光や、道の駅での大瀬川と大瀬川、日本一深い大瀬川、松井山街を組み合わせた観光コースを立ち上げたい。

大阪府、朝の丸川を川が流れる。暫く、パリはセーヌ川の夕陽をモラルに作り上げられた中之島の風景を生かさない手はない。尾道の輪船は活発だ。同クラブは昨年、愛媛県の川べりで朝日を拝みながらお茶をする「川遊び」を企画して好評だった。ほかにも瀬田水が案内する水上観光や、道の駅での大瀬川と大瀬川、松井山街を組み合わせた観光コースを立ち上げたい。

大阪府、朝の丸川を川が流れる。暫く、パリはセーヌ川の夕陽をモラルに作り上げられた中之島の風景を生かさない手はない。尾道の輪船は活発だ。同クラブは昨年、愛媛県の川べりで朝日を拝みながらお茶をする「川遊び」を企画して好評だった。ほかにも瀬田水が案内する水上観光や、道の駅での大瀬川と大瀬川、松井山街を組み合わせた観光コースを立ち上げたい。

毎日新聞
1月7日

(5) 情報提供、提言活動事業

(1)～(4)に限らず、まちづくりのNPOとして大阪のまちの魅力を再発見・開拓し多くの人と共有するために、各種情報提供や政策提言活動への参加などを積極的に展開した。

天満人5号、6号へ「もうひとつの旅クラブ通信」を掲載

- ・第5号では、2005年10月に中之島公園バラ園で実施した舟屋プロジェクトのレポートを「中之島物語」と題して掲載(2006年2月発行)

- ・第6号では、2006年10月に大阪水上バス淀屋橋港棧橋で実施したご来光カフェのレポートとともに、NPO水辺のまち再生プロジェクトとの対談を「中之島物語」として掲載(2006年11月発行)

- ・発行：天満人の会



CEL76号「都市のオルタナティブ・ツーリズム」への寄稿

- ・2005年秋に中之島公園バラ園で実施した舟屋プロジェクトのレポートを「観光都市への飛躍は、大阪の“主軸”再発見から」と題し寄稿

- ・発行：大阪ガスエネルギー・文化研究所(2006年3月)



大阪暮らしが楽しくなる「我がまちのまちづくり」展 出展 vol.1

- ・日時：2006年10月4日(水) 15:00～20:00

- ・場所：中之島中央公会堂3階小集会室

- ・主催：大阪市立住まい情報センター

vol.2

- ・日時：2006年11月13日(月)～17日(金)

- ・場所：明治安田生命大阪御堂筋ビル1階

- ・主催：大阪市立住まい情報センター

- ・協力：明治安田生命保険相互会社



シンポジウム「歴史遺産と都市文化創造」 難波津・渡辺津・八軒家へのパネリスト参加

- ・日時：2006年10月22日(日) 13:00～17:00

- ・場所：OMMビル1階サロン

- ・主催：大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター

各種委員会・審議会等への参加

中之島活性化実行委員会への参加

中之島地域の活性化を図ることを目的として、その実現達成に必要な事項を検討するために設置。水辺のまちづくり企画推進委員会の実行組織に位置づけられる。近畿運輸局、大阪市ゆとりとみどり振興局、京阪電鉄とともに事務局を担い、中之島物語の実施を検討した。

実施日：2006年4月27日、5月31日、7月7日、8月11日、9月20日

「八軒家浜流域再生コアセンター検討WG」への参加

コアセンターの基本計画案の作成に向けて、役割、施設機能、規模、運営・管理等について意見交換を行う。事務局は(財)琵琶湖・淀川水質保全機構。

実施日：2006年12月3日

2. 旅クラブの組織活動(組織活動の充実と強化)と財源確保

(1) 組織活動、市民参加による事業推進

会員の拡大

会員の増減については変化はない。

当NPOは、各プログラムを確実に企画・運営し、その実証行為を政策提言への道程にしていこうとするため、内容重視、確実性優先の会員体制を取っている。

2006 年度の会員数

- ・ 正会員 21 名 (前年度比増減なし)
- ・ 賛助会員 0 名 (前年度比増減なし)

組織活動

定例化した運営委員会を核として、メーリングリストを活用した協議プロセスが定着した。一方で企画調査業務の受託など、専門性が求められる事業の実行において、特定の会員に作業が集中してしまう傾向が見られた。また、当NPOの社会的なプレゼンスの向上にともない、理事長ワーク、事務局ワーク、会計ワークなどの効率的な連携と運営をめざし、幹部会員の体制についての議論を進めた。

総会(第4回)の開催

- ・ 開催日時：2006年3月21日(祝)13:00~15:30
- ・ 会場：I O R I / 雲州堂(大阪市北区菅原町)
- ・ 出席：20名(書面出席3名) 欠席1名
- ・ 議案：2005年度事業及び決算報告

2006年度計画及び予算、役員変更などの審議

理事会の開催

運営委員会を中心に協議を行ったため、理事会は1回のみで開催であった。

- ・ 第1回：2006年1月27日 出席6名(書面出席1名)

主な議事内容：05年度事業の総括と06年度の展開の方向性、役員改選について

運営委員会の開催

以下の通り、理事・会員混合型の運営委員会を開催し、各事業の企画・運営協議を行った。

- | | | |
|-------------|---------------|--------------|
| ・ 2月7日 5名参加 | ・ 3月7日 7名参加 | ・ 5月10日 6名参加 |
| ・ 6月7日 7名参加 | ・ 7月5日 7名参加 | ・ 8月2日 10名参加 |
| ・ 9月6日 9名参加 | ・ 11月1日 10名参加 | ・ 12月6日 9名参加 |

(2) 財源の確保の充実と課題

2006年度の当NPOの主な収入源としては、民間企業からの企画調査業務の委託費、中之島物語の事業委託費が大きなウエイトを占めることになった。これらがNPO運営に定常的に必要となる経費をまかなう上で大きな役割を果たしている。今後とも財源を確保の上で外部からの委託業務の請け負いは重要であるが、当NPOの将来像を見据えた戦略的な受託を図る必要がある。また、2006年度は請け負い業務にウエイトがかかり過ぎた面が否めず、これまでの自主プログラムを参加者負担により着実に実施していくことにも配慮すべきである。